



データの保護

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 6.2

NetApp
October 28, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/sc-plugin-vmware-vsphere/scpivs44_protect_data_overview.html on October 28, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

データの保護	1
データ保護のワークフロー	1
VMとデータストアのバックアップの表示	2
VMとデータストアのバックアップポリシーの作成	3
リソースグループの作成	8
互換性チェックの失敗を管理	14
プリスクリプトとポストスクリプト	14
サポートされるスクリプトタイプ	15
スクリプトパスの場所	15
スクリプトを指定する場所	15
スクリプトが実行されるタイミング	15
スクリプトに渡される環境変数	16
スクリプトのタイムアウト	16
Perlスクリプトの例1	17
Perlスクリプトの例2	17
シェルスクリプトの例	17
単一のVMまたはデータストアをリソースグループに追加する	18
リソースグループへの複数のVMとデータストアの追加	18
名前が変更されたストレージのバックアップのリストア	19
オンデマンドでリソースグループをバックアップ	20
SnapCenter Plug-in for VMware vSphere MySQLデータベースのバックアップ	21
リソースグループの管理	22
リソースグループに対する処理の一時停止と再開	22
リソースグループの変更	22
リソースグループの削除	23
ポリシーの管理	23
ポリシーの適用解除	23
ポリシーの変更	24
ポリシーの削除	24
バックアップの管理	25
バックアップの名前変更	25
バックアップの削除	25

データの保護

データ保護のワークフロー

SnapCenter vSphere Clientを使用して、VM、VMDK、およびデータストアのデータ保護処理を実行します。すべてのバックアップ処理はリソースグループに対して実行されます。リソースグループには、1つ以上のVMとデータストアを任意に組み合わせて含めることができます。バックアップはオンデマンドで実行することも、定義した保護スケジュールに従って実行することもできます。

データストアをバックアップする場合は、そのデータストア内のすべてのVMがバックアップされます。

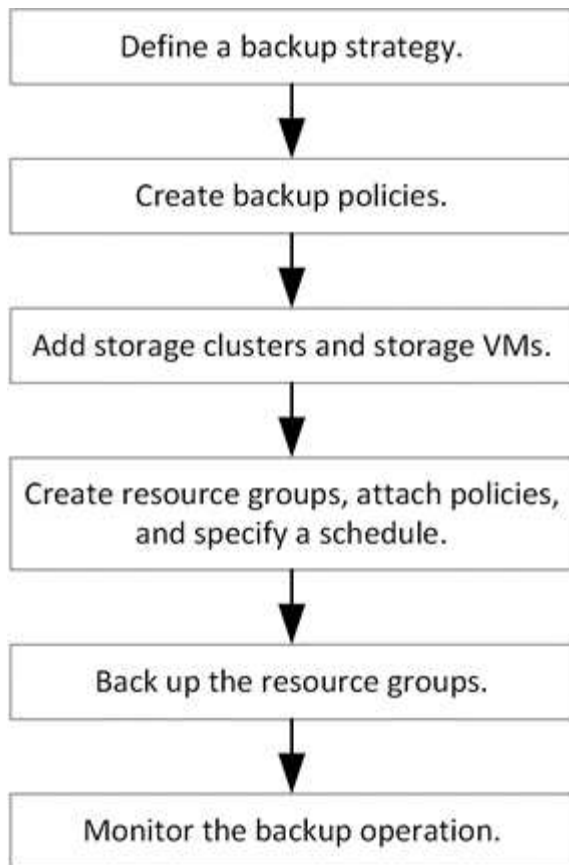
同じリソースグループでバックアップ処理とリストア処理を同時に実行することはできません。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでサポートされる機能とサポートされない機能について説明します。"[導入の計画と要件](#)"

MetroCluster構成の場合：

- フェイルオーバー後、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで保護関係を検出できないことがあります。詳細については、[を参照してください "技術情報アーティクル： Unable to detect SnapMirror or SnapVault relationship after MetroCluster failover"](#)。
- スイッチオーバー/スイッチバック後にNFS VMおよびVMFS VMのバックアップがエラーで失敗した場合は `Unable to discover resources on SCV: <xxx>...`、メンテナンスコンソールからSnapCenter VMwareサービスを再起動します。

次のワークフロー図は、バックアップ処理の実行順序を示しています。



VMとデータストアのバックアップの表示

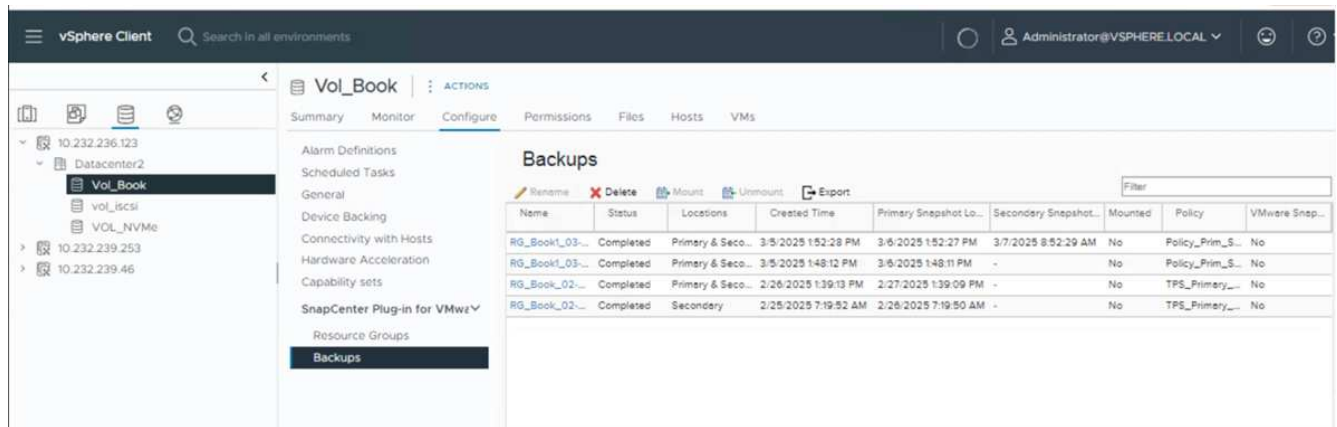
VMまたはデータストアのバックアップまたはリストアを準備する際に、そのリソースの使用可能なすべてのバックアップを確認し、それらのバックアップの詳細を確認することができます。

タスクの内容

10kファイルフォルダなどの大きなファイルフォルダを参照するには、最初に1分以上かかることがあります。以降のブラウズセッションの所要時間は短くなります。

手順

1. vCenter Serverにログインします。
2. [インベントリ]*ページに移動し、データストアまたはVMを選択します。
3. 右側のペインで、**[設定]>* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere >[バックアップ]***を選択します。



ビュー"]

ポリシーの作成段階で*オプションが選択されていない場合、デフォルトで[プライマリスナップショットロックを有効にする]オプションに設定された値が使用されます。バックアップのリストで、[Secondary Snapshot Lock Expiration]*フィールドにハイフンが表示され、プライマリとセカンダリの両方のロック期間が同じであることが示されます。

4. 表示するバックアップを選択します。

VMとデータストアのバックアップポリシーの作成

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを使用してVMとデータストアをバックアップする前に、バックアップポリシーを作成する必要があります。

開始する前に

- 前提条件を確認しておく必要があります。
- セカンダリストレージの関係を設定しておく必要があります。
 - Snapshotをミラーセカンダリストレージまたはバックアップセカンダリストレージにレプリケートする場合は、関係が設定されている必要があり、SnapCenter管理者がソースとデスティネーションの両方のボリューム用にStorage VMを割り当てておく必要があります。
 - NFSまたはVMFSデータストア上のVersion-FlexibleMirror関係でスナップショットをセカンダリストレージに正常に転送するには、SnapMirrorポリシータイプが非同期ミラーであり、「all_source_snapshots」オプションがオンになっていることを確認します。
 - セカンダリストレージ（mirror-vault）上のSnapshotの数が上限に達すると、バックアップ処理でバックアップを登録して保持を適用する処理が失敗し、次のエラーが表示されます。This snapshot is currently used as a reference snapshot by one or more SnapMirror relationships. Deleting the snapshot can cause future SnapMirror operations to fail.

この問題を解決するには、Snapshotの最大数に達しないようにセカンダリストレージのSnapMirror保持ポリシーを設定します。

管理者がユーザーにリソースを割り当てる方法については、以下を参照してください。 ["ロールベースアクセス制御の使用に関する SnapCenter 情報"](#)。

- VMと整合性のあるバックアップが必要な場合は、VMware Toolsをインストールして実行しておく必要があります。VMを休止するには、VMware Toolsが必要です。VM整合性バックアップはVVOL VMではサポ

ートされません。

- SnapMirror Active Syncを使用すると、サイト全体に障害が発生してもビジネスサービスの運用を継続できるため、アプリケーションをセカンダリコピーを使用して透過的にフェイルオーバーできます。



SnapMirrorアクティブ同期はVMFSデータストアでのみサポートされます。

SnapMirror Active Sync環境でVMFSデータストアを保護するには、SnapCenter管理者が次の作業を行う必要があります。

- テクニカルレポートの説明に従って、クラスタとメディエーターを設定します "[SnapMirrorアクティブ同期用のONTAP Mediatorとクラスタの設定](#)"。
- VMFSデータストアに関連付けられているボリュームを整合性グループに追加し、2つのONTAPストレージシステム間に_AutomatedFailOver_or_AutomatedFailOverDuplex_protectionポリシーを使用してデータ保護関係を作成します。_AutomatedFailOverDuplex_policyは、ONTAP 9.15.1リリース以降でサポートされています。



ファンアウト構成では、3番目のサイトでは整合グループはサポートされません。

タスクの内容

ウィザードの各ページのフィールドのほとんどはわかりやすいもので、説明を必要としません。以下の手順では、説明が必要な一部のフィールドを取り上げます。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、*[Policies]*を選択します。
2. ページで、[作成]*を選択してウィザードを開始します。
3. [新しいバックアップポリシー]*ページで、ポリシーの名前と説明を入力します。

- リンクモード

リンクモードでは、各vCenterに個別の仮想アプライアンスがあります。そのため、複数のvCenterで重複した名前を使用できます。ただし、ポリシーはリソースグループと同じvCenterで作成する必要があります。

- サポートされない文字

VM、データストア、クラスタ、ポリシー、バックアップ、またはリソースグループ名： %&*\$#@!
! \ / : * ? " < > - | ; '、およびスペース。

アンダースコア (_) を使用できます。

4. 頻度の設定を指定します。

ポリシーではバックアップの頻度のみを指定します。バックアップの具体的な保護スケジュールは、リソースグループで定義します。そのため、複数のリソースグループで同じポリシーとバックアップ頻度を共有していても、バックアップスケジュールが異なる場合があります。

5. スナップショットのロックを有効にするには、*[ロック期間]*チェックボックスを選択します。プライマリおよびセカンダリSnapshotのロック期間は、日/月/年として選択できます。



ONTAP SnapMirrorポリシーで設定された保持値に関係なく、セカンダリSnapshotコピーは、指定されたセカンダリSnapshotロック期間までは削除されません。

6. 保持設定を指定します。





SnapVaultレプリケーションを有効にする場合は、バックアップの保持数を2以上に設定する必要があります。保持するバックアップの保持数を1に設定すると、保持処理が失敗することがあります。これは、新しいSnapshotがターゲットにレプリケートされるまで、最初のSnapshotがSnapVault関係の参照Snapshotになるためです。



最大保持数は1018個です。保持数を使用しているONTAPバージョンでサポートされる値よりも大きい値に設定すると、バックアップは失敗します。これは、複数のデータストアにも当てはまります。

7. [* Replication *] フィールドで、次の表に示すように、セカンダリ・ストレージへのレプリケーションのタイプを指定します。

このフィールドでは...	操作
バックアップ後にSnapMirrorを更新	<p>プライマリバックアップボリュームとのSnapMirror関係がある別のボリュームにバックアップセットのミラーコピーを作成する場合は、このオプションを選択します。ミラーバックアップ関係が設定されたボリュームでバックアップをミラーバックアップデスティネーションにコピーする場合は、「バックアップ後に SnapVault を更新」オプションのみを選択する必要があります。</p> <div><p>このオプションは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降のFlexGroupボリュームのデータストアでサポートされます。</p></div> <div><p>SnapMirrorアクティブ同期構成でVMFSデータストアを保護するには、開始する前に_セクションに記載されている前提条件を満たし、*「バックアップ後にSnapMirrorを更新する」*を有効にする必要があります。</p></div>

このフィールドでは...	操作
バックアップ後にSnapVaultを更新	<p>プライマリバックアップボリュームとのSnapVault関係がある別のボリュームでディスクツーディスクバックアップレプリケーションを実行する場合は、このオプションを選択します。</p> <div>  <p>ボリュームにmirror-vault関係が設定されている場合、このオプションはmirror-vaultデスティネーションにバックアップをコピーする場合にのみ選択する必要があります。</p> </div> <div>  <p>このオプションは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降のFlexGroupボリュームのデータストアでサポートされます。</p> </div>
Snapshotラベル	<p>このポリシーで作成されたSnapVault SnapshotおよびSnapMirror Snapshotに追加するオプションのカスタムラベルを入力します。Snapshotラベルは、このポリシーで作成されたSnapshotをセカンダリストレージシステム上の他のSnapshotと区別するのに役立ちます。</p> <div>  <p>Snapshotラベルに使用できる最大文字数は31文字です。</p> </div>

8. オプション： [* 詳細設定 *] フィールドで、必要なフィールドを選択します。[Advanced]フィールドの詳細を次の表に示します。

このフィールドでは...	操作
VM整合性	<p>バックアップジョブの実行時に毎回VMを休止してVMwareスナップショットを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このオプションはVVOLではサポートされていません。VVol VMの場合は、crash-consistentバックアップのみが実行されます。</p> <div>  <p>VM整合性バックアップを実行するには、VMでVMware Toolsが実行されている必要があります。VMware toolsが実行されていない場合は、代わりにcrash-consistentバックアップが実行されます。</p> </div> <div>  <p>[VM consistency]チェックボックスをオンにすると、バックアップ処理に時間がかかり、より多くのストレージスペースが必要になることがあります。このシナリオでは、まずVMを休止してから、VMwareがVM整合性スナップショットを実行し、SnapCenterがバックアップ処理を実行してから、VMの処理を再開します。VMゲストメモリは、VM整合性スナップショットには含まれません。</p> </div>
独立型ディスクのデータストアを含める	<p>一時的なデータを含む独立型ディスクのデータストアをバックアップに含める場合は、このボックスをオンにします。</p>
スクリプト	<p>SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでバックアップ処理の前後に実行するプリスクリプトまたはポストスクリプトの完全修飾パスを入力します。たとえば、SNMPトラップの更新、アラートの自動化、ログの送信を行うスクリプトを実行できます。スクリプトパスは、スクリプトの実行時に検証されます。</p> <div>  <p>プリスクリプトとポストスクリプトは、仮想アプライアンスVMに配置する必要があります。複数のスクリプトを入力するには、スクリプトパスの入力後に * Enter キーを押し、スクリプトごとに改行します。文字は使用できません。</p> </div>

9. [追加]を選択します。*

ポリシーが作成されたことを確認し、ポリシーページでポリシーを選択してポリシーの設定を確認できます。

リソースグループの作成

リソースグループは、保護するVM、データストア、vSphereタグ、およびvSphere VMフォルダのコンテナです。

リソースグループには次のものを含めることができます。

- 従来のVM、従来のSANデータストア、従来のNASデータストアの任意の組み合わせ。従来のVMをVVol VMと組み合わせることはできません。
- 単一のFlexGroupデータストア。SCV は、FlexGroupデータストアのスパニングをサポートしていません。FlexGroupデータストアを従来のVMまたはデータストアと組み合わせることはできません。
- 1つ以上のFlexVolデータストア。スパニングデータストアがサポートされます。
- 1つ以上のvVol VM。vVol VMを従来のVMまたはデータストアと組み合わせることはできません。
- 指定したvSphereタグが設定されたすべてのVMとデータストア（VVolデータストアを除く）。
- すべてのVVolを1つの指定したVVolフォルダに格納します。フォルダにVVol VMと従来のVMが混在している場合、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereはVVol VMをバックアップし、従来のVMはスキップします。
- ASA r2 ストレージ システム上の VM およびデータストア。ASA r2 VM およびデータストアを他の VM およびデータストアと組み合わせることはできません。



VMware vSphere Cluster Service (vCLS) を使用している場合は、vCLS で管理される VM をSnapCenter Plug-in for VMware vSphereリソース グループに追加しないでください。

詳細については、を参照してください。 ["vCenterを7.0.xに更新したあとにSCVでvCLS VMをバックアップできない"](#)



SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降では、最大300TBのボリュームで、最大128TBの大規模なLUNおよびファイル上のデータストアがサポートされます。大規模なLUNを保護する場合は、レイテンシを回避するためにシックプロビジョニングLUNのみを使用してください。



アクセスできない状態のVMは追加しないでください。アクセスできないVMを含むリソースグループを作成することは可能ですが、そのリソースグループのバックアップは失敗します。

開始する前に

VVol VMを含むリソースグループを作成する前に、ONTAP tools for VMwareを導入しておく必要があります。

詳細については、ONTAP tools for VMware vSphereのドキュメントを参照してください。サポートされているバージョンについては、["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)。

タスクの内容

- リソース グループへのリソースの追加や削除はいつでも行えます。

- VM などの単一のリソースをバックアップするには、そのリソースのみを含むリソース グループを作成します。
- 複数のリソースをバックアップするには、保護するすべてのリソースを含むリソース グループを作成します。
- MetroCluster環境のFlexGroupボリュームでは、ONTAP 9.8 または 9.9 を使用している場合は、リソース グループをバックアップする前に、スイッチオーバーまたはスイッチバック後にSnapCenter Plug-in for VMware vSphereサービスを再起動し、SnapMirror関係を再同期します。ONTAP 9.8 では、スイッチバック後にバックアップがハングすることがありましたが、これはONTAP 9.9 で解決されています。
- スナップショットのパフォーマンスを最適化するには、同じボリューム上の VM とデータストアを 1 つのリソース グループにグループ化します。
- バックアップ ポリシーなしでリソース グループを作成することもできますが、データ保護には少なくとも 1 つのポリシーが必要です。リソース グループの作成中に、既存のポリシーを選択するか、新しいポリシーを作成します。



Snapshotロック期間が設定されたバックアップポリシーを選択する場合は、ONTAP 9.12.1 以降のバージョンを選択する必要があります。

- SnapCenterは、リソースグループの作成時に互換性チェックを実行します。

[互換性チェックの失敗を管理]

- リソースグループのセカンダリ保護の作成

セカンダリ保護により、リソース グループ内のリソースのレプリケーションが可能になります。セカンダリ保護を使用するには、指定されたポリシーを使用して、プライマリから優先クラスタおよび SVM への整合性グループベースのSnapMirror関係を作成します。この機能は、ASA r2 システムベースのデータストアおよび仮想マシンでのみサポートされます。クラスタと SVM ピアリングが事前に設定されていることを確認します。非同期SnapMirrorポリシーのみがサポートされます。セカンダリ保護を構成するときは、整合性グループのサフィックスを指定する必要があります。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループ を選択し、作成 を選択してウィザードを開始します。または、次のいずれかの方法で、単一のリソースのリソース グループを作成することもできます。
 - 1つのVMのリソースグループを作成するには、ショートカットページで*を選択し、**VM**を右クリックして SnapCenter Plug-in for VMware vSphere >[リソースグループの作成]*を選択します。
 - 1つのデータストアのリソースグループを作成するには、ショートカットページで*を選択し、データストアを右クリックして SnapCenter Plug-in for VMware vSphere >[リソースグループの作成]*を選択します。
2. ウィザードの [一般情報と通知 *] ページで、次の操作を行います。

このフィールドでは...	操作
vCenter Server	vCenterサーバを選択します。

このフィールドでは...	操作
名前	リソース グループの名前を入力します。VM、データストア、ポリシー、バックアップ、またはリソース グループの名前には、次の特殊文字を使用しないでください: % & * \$ # @ ! \ / : * ? " < > - [縦棒]; '、およびスペース。アンダースコア (_) は使用できます。特殊文字を含むVMまたはデータストアの名前は切り捨てられるため、特定のバックアップを検索することが難しくなります。リンク モードでは、各 vCenter が独自のSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを維持します。その結果、異なるvCenter で同じリソース グループ名を使用できるようになります。
製品説明	リソースグループの説明を入力します。
通知	このリソースグループ上の処理に関する通知を受信する場合に選択します。エラーまたは警告：エラーおよび警告のみの通知を送信：エラーのみの通知を送信：すべてのメッセージタイプの通知を送信しない：通知を送信しません
Eメール送信元	通知の送信元のEメールアドレスを入力します。
Eメール送信先	通知の受信者のEメールアドレスを入力します。受信者が複数いる場合は、Eメールアドレスをカンマで区切って指定します。
Eメールの件名	通知メールの件名を入力します。
最新のSnapshot名	<p>最新のSnapshotにサフィックス「_recent」を追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。「_recent」サフィックスは、日付とタイムスタンプを置き換えます。</p> <div>  <p>_recent`バックアップは、リソースグループに適用されているポリシーごとに作成されます。そのため、リソースグループに複数のポリシーが設定されている場合は、複数のバックアップが作成され、_recent ます。バックアップの名前を手動で変更しない _recent でください。</p> </div> <div>  <p>ASA R2ストレージシステムではSnapshotの名前変更がサポートされないため、SCVのrename backup および _recent Snapshotの命名機能はサポートされません。</p> </div>

このフィールドでは...	操作
カスタムSnapshot形式	<p>Snapshot名にカスタム形式を使用する場合は、このボックスをオンにして名前形式を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトでは、この機能は無効になっています。 デフォルトでは、スナップショット名は次の形式に従います。 <ResourceGroup>_<Date-TimeStamp>。 \$ResourceGroup、\$Policy、\$HostName、\$ScheduleType、\$CustomText などの変数を使用してスナップショット名をカスタマイズできます。カスタム名フィールドのドロップダウン リストから、必要な変数とその順序を選択します。\$CustomTextを含めると、フォーマットは次のようになります。 <CustomName>_<Date-TimeStamp>。指定されたフィールドにカスタムテキストを入力します。[注意]: 「_recent」サフィックスを選択する場合は、名前に \$ResourceGroup および \$Policy 変数を含めることで、カスタム スナップショット名がデータストア内で一意であることを確認してください。 名前に特殊文字が含まれている場合は、Name フィールドと同じガイドラインに従ってください。

3. [* リソース *] ページで、次の操作を実行します。

このフィールドでは...	操作
適用範囲	<p>保護するリソースのタイプを選択します。データストア（指定した1つ以上のデータストア内の従来のすべてのVM）。VVolデータストアは選択できません。*仮想マシン（従来のVMまたはVVol VMを個別に移動。フィールドでは、VMまたはVVol VMを含むデータストアに移動する必要があります））。FlexGroupデータストア内のVMを個別に選択することはできません。*タグタグベースのデータストア保護は、NFSデータストアとVMFSデータストア、および仮想マシンとVVol仮想マシンでのみサポートされます。VMフォルダ（指定したフォルダ内のすべてのVVol VM。ポップアップフィールドでフォルダが配置されているデータセンターに移動する必要があります）</p>
データセンター	<p>追加するVMまたはデータストアまたはフォルダに移動します。 リソースグループ内のVMとデータストアの名前は一意である必要があります。</p>
使用可能なエンティティ	<p>保護するリソースを選択し、*>*を選択して選択したエンティティリストに移動します。</p>

[次へ]*を選択すると、SnapCenterが管理しているかどうか、および選択したリソースが配置されているストレージと互換性があるかどうか最初にチェックされます。

メッセージが表示される場合は `Selected <resource-name> is not SnapCenter compatible`、選択したリソースがSnapCenterと互換性がありません。

1つ以上のデータストアをバックアップからグローバルに除外するには、構成ファイルのプロパティにデータストア名を指定する必要があります `global.ds.exclusion.pattern scbr.override` ます。を参照してください ["オーバーライド可能なプロパティ"](#)。

4. [* スパニングディスク *] ページで、複数のデータストアに複数の VMDK がある VM のオプションを選択します。

- Always exclude all spanning datastores (データストアのデフォルト)
- すべてのスパニングデータストアを常を含める (VMのデフォルト)
- 含めるスパニングデータストアを手動で選択する

FlexGroupデータストアとVVolデータストアでは、複数のVMにまたがることはできません。

5. [* Policies] ページで、次の表に示すように 1 つ以上のバックアップポリシーを選択または作成します。

を使用するには ...	操作
既存のポリシー	リストから1つ以上のポリシーを選択します。セカンダリ保護は、SnapMirrorとSnapVaultの両方の更新を選択した既存のポリシーと新しいポリシーに適用されます。
新しいポリシー	<ul style="list-style-type: none">a. 「* Create *」を選択します。b. [New Backup Policy]ウィザードの手順に従って[Create Resource Group]ウィザードに戻ります。

リンクモードでは、リンクされたすべてのvCenterのポリシーがリストに含まれます。リソースグループと同じvCenter上にあるポリシーを選択する必要があります。

6. セカンダリ保護 ページには、選択したリソースと現在の保護ステータスが表示されます。保護されていないリソースの保護を有効にするには、レプリケーション ポリシー タイプを選択し、整合性グループのサフィックスを入力して、ドロップダウン メニューから宛先クラスタと宛先 SVM を選択します。リソースグループが作成されると、SCV は二次保護用の別のジョブを開始します。このジョブはジョブ モニター ウィンドウで監視できます。

フィールド	製品説明
レプリケーションポリシー名	SnapMirrorポリシーの名前。サポートされるセカンダリポリシーは、*非同期*および*ミラーとバックアップ*のみです。

フィールド	製品説明
整合グループサフィックス	宛先コンシステンシー グループを作成するときに、プライマリ コンシステンシー グループ名に追加するサフィックスを入力します。たとえば、プライマリ整合性グループの名前が sccg_2024-11-28_120918、そしてあなたは入る `dest` 接尾辞として、セカンダリコンシステンシーグループの名前は `sccg_2024-11-28_120918_dest`。このサフィックスは、保護されていない整合性グループにのみ使用されます。
デスティネーションクラスタ	保護されていないすべてのストレージ ユニットの 場合、SCV はドロップダウン メニューにピア クラスタの名前を表示します。SVM スコープを使用してストレージが SCV に追加された場合、ONTAP の制限により、クラスタ名ではなくクラスタ ID が表示されます。
デスティネーション SVM	保護されていないすべてのストレージ ユニットの 場合、SCV はピア SVM の名前を表示します。コンシステンシー グループの一部であるストレージ ユニットを選択すると、そのコンシステンシー グループ内の他のすべてのストレージ ユニットに対して対応するクラスタと SVM が自動的に選択されます。
セカンダリで保護されるリソース	リソースページに追加されたリソースの保護されているすべてのストレージユニットについて、セカンダリ関係の詳細（クラスタ、SVM、レプリケーションタイプなど）が表示されます。

Create Resource Group

×

✓ 1. General info & notification

✓ 2. Resource

✓ 3. Spanning disks

✓ 4. Policies

5. Secondary Protection

6. Schedules

7. Summary

Secondary unprotected resources ⓘ

Replication Policy Name

Asynchronous ⓘ

Consistency Group suffix

_dest ⓘ

Source Location	Resources	Destination Cluster ⓘ	Destination SVM
svm0:testds	smbc_spanned_vm	sti42-vsिम-ucs512g_... ⓘ	svm1 ⓘ

Secondary protected resources

Source Location	Resources	Destination SVM	Replication Type
svm0 : smbc_manual_2	smbc_spanned_vm	sti42-vsिम-ucs512g_clus...	async
svm0 : smbc_manual_1	smbc_spanned_vm	sti42-vsिम-ucs512g_clus...	async

ウィンドウ"]

7. スケジュール ページで、選択したポリシーごとにバックアップ スケジュールを設定します。

[Starting hour]フィールドに、ゼロ以外の日時を入力します。日付はの形式で指定する必要があります

`day/month/year` ます。

[間隔] フィールドで値 (たとえば、* 2 日ごと*) を選択した場合、開始日が偶数か奇数かに関係なく、バックアップは月の最初の日に実行され、その後は指定された間隔 (1 日目、3 日目、5 日目、7 日目など) でその月の残りの期間繰り返し実行されます。

すべてのフィールドが必須です。SnapCenter Plug-in for VMware vSphere は、導入されているタイムゾーンに基づいてバックアップ スケジュールを作成します。タイムゾーンを変更するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere ユーザー インターフェイスを使用します。

"バックアップのタイムゾーンの変更"です。

8. 概要を確認し、*[終了]*を選択します。SCV 6.1以降では、ASA R2システムのセカンダリ保護リソースが概要ページに表示されます。

[Finish]*を選択する前に、ウィザードの任意のページに戻って情報を変更できます。

[終了]*を選択すると、新しいリソースグループがリソースグループのリストに追加されます。



バックアップ内のいずれかの VM の静止操作が失敗した場合、VM 整合性のあるポリシーを選択した場合でも、SCV はバックアップを VM 整合性がないものとしてマークします。この場合、一部のVMは正常に休止されている可能性があります。

互換性チェックの失敗を管理

リソース グループを作成しようとすると、SnapCenterによって互換性チェックが実行されます。常に参照する ["NetApp Interoperability Matrix Tool \(IMT\)"](#) SnapCenterサポートの最新情報については、こちらをご覧ください。互換性の問題が発生する理由は次のとおりです。

- 共有PCIデバイスがVMに接続されている。
- 優先IPアドレスがSnapCenterに設定されていません。
- Storage VM (SVM) 管理IPアドレスをSnapCenterに追加していません。
- Storage VMは停止しています。

互換性エラーを修正するには、次の手順を実行します。

1. Storage VMが実行されていることを確認してください。
2. VMが配置されているストレージシステムがSnapCenter Plug-in for VMware vSphereインベントリに追加されていることを確認します。
3. Storage VMがSnapCenterに追加されていることを確認します。VMware vSphere クライアント ユーザー インターフェイスの [ストレージ システムの追加] オプションを使用します。
4. NetAppとNetApp以外の両方のデータストアにVMDKを含む複数のVMがある場合は、それらのVMDKをNetAppデータストアに移動します。

プリスクリプトとポストスクリプト

カスタムのプリスクリプトとポストスクリプトをデータ保護処理の一部として使用する

ことができます。これらのスクリプトを使用すると、データ保護ジョブの実行前または実行後に自動化を実行できます。たとえば、データ保護ジョブのエラーや警告を自動的に通知するスクリプトを組み込むことができます。プリスクリプトとポストスクリプトを設定する前に、スクリプトを作成するための要件を理解しておく必要があります。

サポートされるスクリプトタイプ

Perlスクリプトとシェルスクリプトがサポートされています。シェルスクリプトはで始まる必要があります。 `#!/bin/bash`` ます。 (`#!/bin/sh`` はサポートされていません)。

スクリプトパスの場所

プリスクリプトとポストスクリプトは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで実行されます。そのため、スクリプトは実行可能な権限を持つSnapCenter Plug-in for VMware vSphere OVA内に格納されている必要があります。

例えば：

- PERLスクリプトのパスは次のようになります `/support/support/script.pl`
- シェルスクリプトのパスは次のようになります `/support/support/script.sh`

スクリプトパスは、スクリプトの実行時に検証されます。

スクリプトを指定する場所

スクリプトはバックアップポリシーで指定されます。バックアップジョブが開始されると、ポリシーによってスクリプトがバックアップ対象のリソースに自動的に関連付けられます。

複数のスクリプトを指定するには、スクリプトパスの入力後に * Enter キーを押し、スクリプトごとに改行します。セミコロン (;) は使用できません。プリスクリプトとポストスクリプトをそれぞれ複数指定できます。1つのスクリプトをプリスクリプトとポストスクリプトの両方としてコーディングし、他のスクリプトを呼び出すことができます。

スクリプトが実行されるタイミング

スクリプトは、Backup_phase に設定された値に従って実行されます。

- backup_phase = pre_backup

処理の PRE_BACKUP フェーズでプリスクリプトが実行されます。



プレスクリプトが失敗すると、バックアップは正常に完了し、警告メッセージが送信されます。

- BACKUP_PHASE=POST_BACKUP または BACKUP_PHASE=FAILED_BACKUP

ポストスクリプトは、バックアップが正常に完了したあとに処理の POST_BACKUP フェーズで実行されます。バックアップが正常に完了しない場合は、 FAILED_BACKUP フェーズで実行されます。



ポストスクリプトが失敗すると、バックアップは正常に完了し、警告メッセージが送信されま
す。

次のファイルを調べて、スクリプトの値が設定されていることを確認します。

- PERL スクリプトの場合: /support/support/log_env.log
- シェルスクリプトの場合: /support/support/log_file.log

スクリプトに渡される環境変数

次の表に示す環境変数は、スクリプトで使用できます。

環境変数	製品説明
BACKUP_NAME	バックアップの名前。ポストスクリプトでのみ渡される変数です。
BACKUP_DATE	バックアップの日付（ポストスクリプトでのみ渡される変数形式）。yyyymmdd
BACKUP_TIME	バックアップの時刻（「Variable passed in postscripts only」形式）hhmmss。
BACKUP_PHASE	スクリプトを実行するバックアップのフェーズ。有効な値は、`PRE_BACKUP`, `POST_BACKUP`, and `FAILED_BACKUP`です。プリスクリプトとポストスクリプトで渡される変数です。
STORAGE_SNAPSHOTS	バックアップ内のストレージSnapshotの数。ポストスクリプトでのみ渡される変数です。
STORAGE_SNAPSHOT.#	次の形式で定義されたストレージスナップショットの1つ。ポストスクリプトでのみ渡される変数。 <filer>:/vol/<volume>:<ONTAP-snapshot-name>
VIRTUAL_MACHINES	バックアップ内のVMの数。プリスクリプトとポストスクリプトで渡される変数です。
VIRTUAL_MACHINE.#	次の形式で定義された仮想マシンの1つ。プリスクリプトとポストスクリプトで値または変数が渡されます。 <VM name>[vertical bar]<VM UUID>[vertical bar]<power- state>[vertical bar]<VM snapshot>[vertical bar]<ip-addresses> <power-state> has the values POWERED_ON, POWERED_OFF, or SUSPENDED <VM snapshot> true false

スクリプトのタイムアウト

バックアップスクリプトのタイムアウトは15分で、変更することはできません。

Perlスクリプトの例1

次のPerlスクリプトの例では、バックアップの実行時に環境変数が出力されます。

```
#!/usr/bin/perl
use warnings;
use strict;
my $argnum;
my $logfile = '/support/support/log_env.log';
open (FH, '>>', $logfile) or die $!;
foreach (sort keys %ENV) {
    print FH "$_ = $ENV{$_}\n";
}
print FH "=====\n";
close (FH);
```

Perlスクリプトの例2

次に、バックアップに関する情報を出力する例を示します。

```
#!/usr/bin/perl
use warnings;
use strict;

my $argnum;
my $logfile = '/support/support/log_env.log';
open (FH, '>>', $logfile) or die $!;

print FH "BACKUP_PHASE is $ENV{'BACKUP_PHASE'}\n";
print FH "Backup name $ENV{'BACKUP_NAME'}\n";
print FH "Virtual Machine $ENV{'VIRTUAL_MACHINES'}\n";
print FH "VIRTUAL_MACHINE # is $ENV{'VIRTUAL_MACHINE.1'}\n";
print FH "BACKUP_DATE is $ENV{'BACKUP_DATE'}\n";
print FH "BACKUP_TIME is $ENV{'BACKUP_TIME'}\n";
print FH "STORAGE_SNAPSHOTS is $ENV{'STORAGE_SNAPSHOTS'}\n";
print FH "STORAGE_SNAPSHOT # is $ENV{'STORAGE_SNAPSHOT.1'}\n";

print FH "PWD is $ENV{'PWD'}\n";
print FH "INVOCATION_ID is $ENV{'INVOCATION_ID'}\n";

print FH "=====\n";
close (FH);
```

シェルスクリプトの例

```
=====
#!/bin/bash
echo Stage $BACKUP_NAME >> /support/support/log_file.log
env >> /support/support/log_file.log
=====
```

単一のVMまたはデータストアをリソースグループに追加する

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで管理されている既存のリソースグループに、単一のVMまたはデータストアを簡単に追加できます。

タスクの内容

SANおよびNASデータストアは追加できますが、VSANまたはVVOLデータストアは追加できません。

手順

1. vSphere クライアント ユーザー インターフェイスで、ツールバーの メニュー を選択し、追加する VM またはデータストアに移動します。
2. 左側のナビゲーションペインで、VMまたはデータストアを右クリックし、2番目のドロップダウンリストから * SnapCenter Plug-in for VMware vSphere >[Add to Resource Group]*を選択します。

最初に、選択した VM が配置されているストレージシステムが SnapCenter で管理されているかどうかを確認され、次にリソースグループに追加 * ページが表示されます。というメッセージが表示された場合は SnapCenter Compatibility Error、選択したVMがSnapCenterに対応していないため、まず適切なStorage VMをSnapCenterに追加する必要があります。

3. ページで、リソースグループを選択し、[OK]*を選択します。

[OK]*を選択すると、選択したVMまたはデータストアが配置されているストレージにSnapCenterが対応しているかどうか最初にチェックされます。

というメッセージが表示された場合は Selected <resource-name> is not SnapCenter compatible、選択したVMまたはデータストアがSnapCenterと互換性がありません。詳細については、を参照してください ["互換性チェックの失敗を管理"](#)。

リソースグループへの複数のVMとデータストアの追加

SnapCenter VMware vSphere Clientの[Edit Resource Group]ウィザードを使用して、既存のリソースグループに複数のリソースを追加できます。


リソースグループには次のいずれかを含めることができます。

- 従来のVMとSANデータストアとNASデータストアの任意の組み合わせ（VVOLデータストアはサポートされません）。
- 1つのFlexGroupデータストア（複数のVMにまたがることはサポートされません）。
- 1つ以上のFlexVolデータストア（複数のVMにまたがることはサポートされます）。
- 1つ以上のVVol VM。
- 指定したvSphereタグが設定されているすべてのVVol VM。
- 指定したフォルダ内のすべてのVVol VM。



SnapCenterでは、選択したプライマリのVVOLデータストアのVVOLのみがバックアップされるため、複数のVVOLデータストアにまたがるVVol VMはサポートされません。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、[リソースグループ]*を選択してリソースグループを選択し、[リソースグループの編集]*を選択し  でウィザードを開始します。
2. [* リソース *] ページで、次の操作を実行します。

- a. [Datastores]フィールドで、追加するVMまたはデータストアに移動します。
- b. [Available entities]リストで、リソースグループに追加するVMまたはデータストアを1つ以上選択し、>*を選択して選択したエンティティのリストに移動します。使用可能なすべてのエンティティを移動するには、>>*を選択します。

デフォルトでは、[Available entities]リストには[Datacenter]オブジェクトが表示されます。データストアを選択してデータストア内のVMを表示し、リソースグループに追加できます。

[次へ]*を選択すると、SnapCenterが管理しており、選択したVMまたはデータストアが配置されているストレージと互換性があるかどうか最初にチェックされます。というメッセージが表示された場合は `Some entities are not SnapCenter compatible`、選択したVMまたはデータストアがSnapCenterと互換性がありません。詳細については、を参照してください ["互換性チェックの失敗を管理"](#)。

3. 追加するVMまたはデータストアごとに手順2を繰り返します。
4. [概要]ページが表示されるまで[次へ]を選択し、概要を確認して[完了]*を選択します。

名前が変更されたストレージのバックアップのリストア

ストレージの名前を変更すると、名前変更前に作成されたバックアップを使用するワークフローが失敗します。REST APIからのみアクセスできるバックアップ名変更機能が導入され、ストレージ名変更前に作成されたバックアップを使用できるようになりました。REST APIのワークフローと使用方法を以下に示します。



ASA R2ストレージシステムは、_recentスナップショット命名機能をサポートしていません。

手順

1. 新しいストレージ接続を追加または更新し、新しいクラスタ名またはSVM名がSCVに反映されるようにします。
2. 次の技術情報アートの説明に従って、サービスを再起動してキャッシュを更新します。 ["SVM名を変更したあとにSCVバックアップが失敗する"](#)
3. 新しいバックアップを作成します。
4. バックアップの詳細を使用して、古いストレージ名と新しいストレージ名を検索します。
5. vSphere Clientの* Backups *画面で、バックアップを選択して詳細を表示します。
6. 次のURLからSwaggerにアクセスします。 `https://<SCV-IP>:8144/api/swagger-ui/index.html`

次のAPIを使用してストレージの名前を変更します。

パッチ/ 4.1 /ストレージシステム

例： {"existingSVM": {"name": "string"} 、 "newSVM": {"name": "string"} }

対応：

{"statusMessage": "OK", "statusCode": 200, "responseMessage": ["ストレージシステムの名前が正常に変更されました。"]}

このAPIを実行すると、古いバックアップからのリストア処理を含むすべてのワークフローを実行できるようになります。

オンデマンドでリソースグループをバックアップ

バックアップ処理は、リソースグループに定義されているすべてのリソースに対して実行されます。リソースグループにポリシーが適用され、スケジュールが設定されている場合は、スケジュールに従って自動的にバックアップが実行されます。



ASA R2のバックアップでは、整合グループのSnapshotが作成され、指定したリソースにプライマリ整合グループがない場合はプロビジョニングされます。

開始する前に

ポリシーを適用してリソースグループを作成しておく必要があります。




SnapCenter Plug-in for VMware vSphere MySQLデータベースのバックアップジョブがすでに実行中のときは、オンデマンドバックアップジョブを開始しないでください。メンテナンスコンソールを使用して、MySQLデータベースの設定されたバックアップスケジュールを確認します。

タスクの内容

以前のリリースのVirtual Storage Console (VSC) では、VMまたはデータストアのバックアップジョブを設定せずにオンデマンドバックアップを実行できました。ただし、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでは、バックアップを実行する前にVMとデータストアがリソースグループに含まれている必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、**[リソースグループ]***を選択し、リソースグループを選択して**[今すぐ実行]***を選択し、でバックアップを開始します。
2. リソースグループに複数のポリシーが設定されている場合は、*** 今すぐバックアップ *** ダイアログボックスで、このバックアップ処理に使用するポリシーを選択します。
3. **[OK]***を選択してバックアップを開始します。
4. オプション：ウィンドウ下部の*を選択するか、ダッシュボード**[ジョブモニタ]***で詳細を確認して、処理の進捗状況を監視します。結果

バックアップ内のいずれかのVMで休止処理が失敗すると、バックアップは警告付きで完了し、選択したポリシーでVM整合性が選択されていてもVM整合性なしとマークされます。この場合、一部のVMが正常に休止されている可能性があります。ジョブモニタでは、障害が発生したVMの詳細に休止が失敗したと表示されます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere MySQLデータベースのバックアップ

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereには、プラグインで実行されるすべてのジョブのメタデータを格納するMySQLデータベース（NSMデータベースとも呼ばれます）が含まれています。このリポジトリは定期的にバックアップする必要があります。

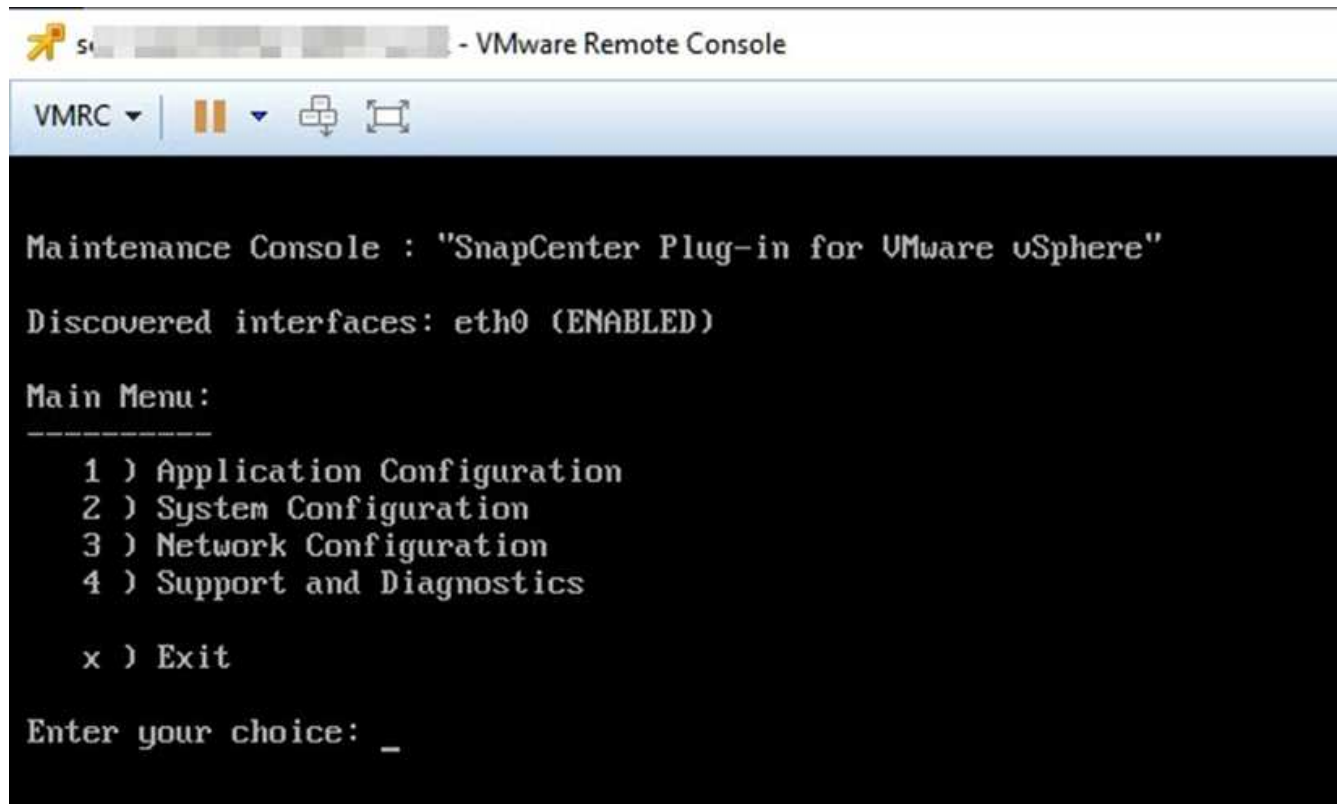
移行またはアップグレードを実行する前に、リポジトリもバックアップする必要があります。

開始する前に

オンデマンドバックアップジョブがすでに実行されているときは、MySQLデータベースをバックアップするジョブを開始しないでください。

手順

1. VMware vSphere Clientで、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが配置されているVMを選択します。
2. 仮想アプライアンスの*タブで[リモートコンソールの起動]*または[Webコンソールの起動]*を選択して、メンテナンスコンソールウィンドウを開きます。



3. メインメニューから、オプション * 1) 「Application Configuration. *」と入力します
4. [アプリケーションの設定]メニューから、オプション * 6) 「mysql backup and restore. *」を入力します
5. [MySQL バックアップと復元の設定]メニューから、オプション * 1) [MySQL バックアップの設定 *]を入力します。
6. プロンプトで、リポジトリのバックアップの場所、保持するバックアップの数、およびバックアップを開始する時刻を入力します。

入力すると、すべての入力が入力されます。バックアップの保持数に達すると、新しいバックアップの実行時に古いバックアップが削除されます。



リポジトリバックアップの名前は「`backup-<date>`」です。リポジトリのリストア機能では「`backup`」プレフィックスが検索されるため、変更しないでください。

リソースグループの管理

バックアップリソースグループを作成、変更、削除したり、リソースグループに対してバックアップ処理を実行したりできます。



Virtual Storage Console (VSC) では、リソースグループはバックアップジョブと呼ばれます。

リソースグループに対する処理の一時停止と再開

リソースグループでスケジュールされた操作を一時停止します。必要に応じて再度有効にします。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、**[Resource Groups]***を選択し、リソースグループを選択して[Suspend]を選択します（または[Resume]*を選択します）。
2. 確認ボックスで* OK *を選択して確定します。

終了後

[Resource Groups]ページで、一時停止したリソースのジョブステータスは `Under_Maintenance`。[Job Status]列が表示されるまで、表を右にスクロールしなければならない場合があります。

バックアップ処理が再開されると、[Job Status]が `Production` になります。

リソースグループの変更

vCenterでリソースグループ内のリソースの削除や追加、ポリシーの適用解除や適用、スケジュールの変更、その他のリソースグループオプションの変更を行うことができます。

タスクの内容

リソースグループの名前を変更する場合は、VM、データストア、ポリシー、バックアップ、またはリソースグループの名前に次の特殊文字を使用しないでください。

`% & * $ # @ ! \ / : * ? " < > - | ; ' ,`、およびスペース。アンダースコア文字 (`_`) も使用できます。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、**[Resource Groups]***を選択し、リソースグループを選択して[Edit]*を選択します。
2. [リソースグループの編集]*ウィザードの左側のリストで、変更するカテゴリを選択し、変更内容を入力します。

複数のカテゴリに変更を加えることができます。このオプションでは、保護されたセカンダリリソースを編集することもできます。

3. [概要]ページが表示されるまで[次へ]を選択し、[完了]*を選択します。

リソースグループの削除

リソースを保護する必要がない場合は、vCenter でリソース グループを削除します。 SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを削除する前に、すべてのリソース グループを削除します。

タスクの内容

リソース グループの削除処理は、すべて強制削除として実行されます。リソース グループを削除すると、システムによって vCenter リソース グループからすべてのポリシーがデタッチされ、 SnapCenter Plug-in for VMware vSphereからリソース グループが削除され、リソース グループのすべてのバックアップとスナップショットが削除されます。



SnapVault関係では、最後のスナップショットを削除できないため、リソース グループを削除できません。 SnapVault関係内のリソース グループを削除する前に、System Manager またはONTAP CLI を使用して関係を削除し、最後のスナップショットを削除します。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、**[Resource Groups]***を選択し、リソースグループを選択して[Delete]*を選択します。
2. リソース グループの削除 確認ダイアログで、**OK** を選択して確認します。リソース グループを削除しても、セカンダリ保護は削除されません。必要に応じて、System Manager を使用して二次保護を削除します。リソース グループ用に作成されたコンシステンシ グループは自動的に削除されません。System Manager またはサポートされている別のインターフェイスを使用して、ONTAPから手動で削除する必要があります。

ポリシーの管理

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップポリシーを作成、変更、表示、適用解除、および削除できます。データ保護処理を実行するにはポリシーが必要です。

ポリシーの適用解除

リソースのデータ保護を管理するポリシーが不要になった場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere リソースグループからポリシーの適用を解除できます。ポリシーを削除する前、またはスケジュール頻度を変更する前に、ポリシーの適用を解除する必要があります。

タスクの内容

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereリソースグループからポリシーの適用を解除するためのガイドラインは、SnapCenterリソースグループのガイドラインとは異なります。VMware vSphere Clientリソースグループの場合は、すべてのポリシーの適用を解除できます。その結果、リソースグループにポリシーがなくなります。ただし、そのリソースグループに対してデータ保護処理を実行するには、少なくとも1つのポリシーを適用する必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲーションペインで、**[Resource Groups]***を選択し、リソースグループを選択して[Edit]*を選択します。
2. リソースグループの編集ウィザードの * ポリシー * ページで、適用解除するポリシーの横にあるチェック

マークをオフにします。

ポリシーをチェックしてリソースグループにポリシーを追加することもできます。

3. ウィザードの残りの部分でリソースグループに追加の変更を加え、*[終了]*を選択します。

ポリシーの変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereリソースグループのポリシーを変更できます。リソースグループにポリシーが適用されている場合は、頻度、レプリケーションオプション、Snapshotの保持設定、またはスクリプトの情報を変更できます。

タスクの内容

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップポリシーの変更は、SnapCenterアプリケーションベースのプラグインのバックアップポリシーの変更とは異なります。プラグインのポリシーを変更するときに、リソースグループからポリシーの適用を解除する必要はありません。

レプリケーションまたは保持の設定を変更する前に、その影響を考慮する必要があります。

- レプリケーションまたは保持の設定を増やす

新しい設定に達するまでバックアップが蓄積され続けます。

- レプリケーションまたは保持の設定を引き下げる場合

新しい設定を超過したバックアップは、次のバックアップの実行時に削除されます。



SnapCenter Plug-in for VMware vSphereポリシーのスケジュールを変更するには、プラグインリソースグループでスケジュールを変更する必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、**[Policies]***を選択し、ポリシーを選択して[Edit]*を選択します。
2. ポリシーのフィールドを変更します。
3. 完了したら、*[更新]*を選択します。

変更は、スケジュールされたバックアップが次回実行されるときに有効になります。

ポリシーの削除

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere用に設定したバックアップポリシーが不要になった場合は、ポリシーを削除できます。

開始する前に

SnapCenterを削除する前に、仮想アプライアンス内のすべてのリソースグループでポリシーの適用を解除しておく必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、**[Policies]***を選択し、ポリシーを選択して[Remove]*を選

択します。

2. 確認ダイアログボックスで* OK *を選択します。

バックアップの管理

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで実行されるバックアップの名前変更と削除を行うことができます。複数のバックアップを同時に削除することもできます。

バックアップの名前変更

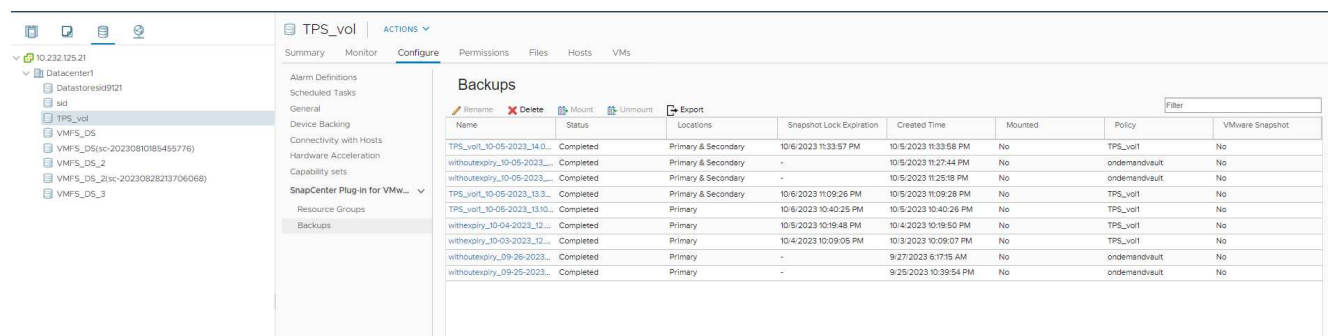
検索しやすくするためにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereバックアップの名前を変更することができます。



ASA R2ストレージシステムでは、バックアップの名前変更はサポートされていません。

手順

1. を選択し、[ホストおよびクラスター]メニューオプションを選択してから**VM**を選択し、[設定]タブを選択し、SnapCenter セクションの[バックアップ]*を選択します。



2. [設定]タブでバックアップを選択し、*[名前変更]*を選択します。
3. ダイアログボックスで、新しい名前を入力し、[OK]*を選択します。

VM、データストア、ポリシー、バックアップ、リソースグループの名前には、次の特殊文字は使用できません。* \$#@ !\ / : * ? " < > - | ; '、およびスペース。アンダースコア文字 (_) も使用できます。

バックアップの削除

他のデータ保護処理に不要になったSnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップは削除できます。1つのバックアップを削除することも、複数のバックアップを同時に削除することもできます。

開始する前に

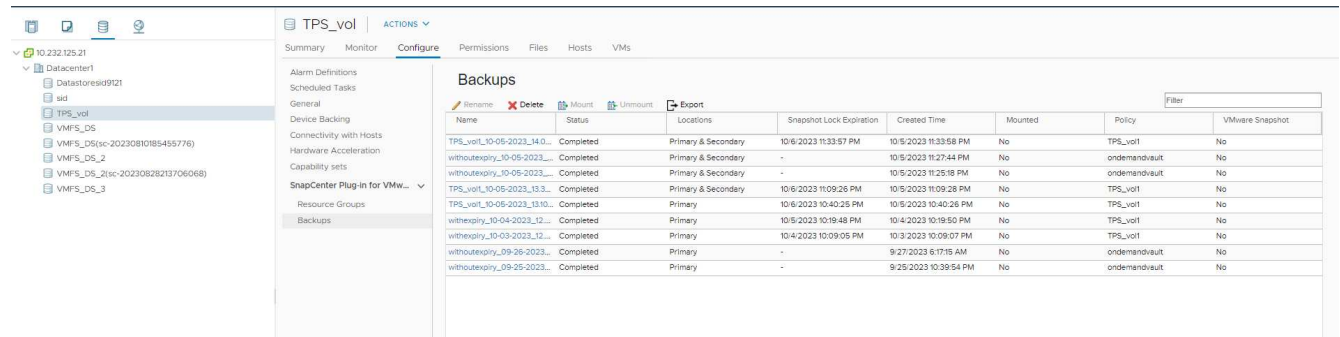
マウントされているバックアップは削除できません。削除するには、バックアップをアンマウントする必要があります。

タスクの内容

セカンダリストレージ上のSnapshotは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereではなく、ONTAPの保持設定で管理されます。そのため、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを使用してバックアップを削除して

も、プライマリストレージのSnapshotは削除されますが、セカンダリストレージのSnapshotは削除されません。セカンダリストレージにSnapshotが残っている場合は、リストア要求に対応するために、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでバックアップに関連付けられたメタデータが保持されます。ONTAP保持プロセスでセカンダリSnapshotが削除されると、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereはパージジョブを使用してメタデータを削除します。パージジョブは定期的に行われます。

1. を選択し、[ホストおよびクラスター]メニューオプションを選択してから**VM**を選択し、[設定]タブを選択し、SnapCenter セクションの[バックアップ]*を選択します。



2. 1つ以上のバックアップを選択し、*[削除]*を選択します。

削除するバックアップは最大40個まで選択できます。

3. [OK]*を選択して削除操作を確定します。
4. 左側のvSphereメニューバーにある更新アイコンを選択して、バックアップリストを更新します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。